

# トマト黄化葉巻病おうかはまきびょうの防除対策について

深谷市  
深谷市病害虫対策会議  
埼玉県大里農林振興センター

トマト黄化葉巻病は、植物のウィルス病です。一度感染すると、葉の退色部位や萎縮したところを除去しても治りません。病気のまん延を防止するためには、伝染源を断つことと、病気を媒介するタバココナジラミ類を防除することが大切です。地域ぐるみでの取り組みが必要ですので、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

## トマト黄化葉巻病の発生を防ぐためには

タバココナジラミ類を

『ハウス内に入れない』

『ハウス内・外で増やさない』

『ハウス内で死滅させる』

ことが重要です。

※露地栽培では、ハウス栽培に準じて対策を実施しましょう。

### 1 『ハウス内に入れない』

- (1) ハウスの開口部に目合い0.4mm防虫ネットを張る。
- (2) ハウス周辺に防草シートや光反射シートを設置する。
- (3) ハウス周辺の雑草や野良ばえトマトを除去する。
- (4) ハウス内に花や観葉植物を持ち込まない。

### 2 『ハウス内・外で増やさない』

- (1) 育苗時から定植時にベストガード粒剤又はジノテフラン粒剤を施用する。
- (2) 黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生を確認したら、直ちに薬剤による防除を実施する。また、特定の成分や同じ系統の薬剤を繰り返し使用しない。
- (3) 発病株は速やかに抜き取る
- (4) 発病株や除去した茎や葉は、ビニール等で密閉するか、土中に埋めるなど適切に処分する。

### 3 『ハウス内で死滅させる（ハウスから出さない）』

- (1) 栽培終了後、トマトの地際部を切断した後、ハウス内を40℃以上10日間密閉（蒸し込み）し、コナジラミ類を確実に死滅させる。

おうかはまきびょう  
**トマト黄化葉巻病の症状について**

トマト黄化葉巻病（TYLCV）はタバココナジラミ類によって媒介されるウイルス病です。

感染すると以下の症状が現れ、収量が減少します。

**○症状例（写真）**

① タバココナジラミ（体長 1.2 mm）



② 葉の退色状況



③ 萎縮したわき芽



④ 株頂部の状況



**病 徴**

- 最初に新葉が葉縁から退色しながら葉巻症状となる。
- その後、葉は表側に巻き、葉脈間が黄化萎縮する。さらに病勢が進行すると、葉はちりめん状となり、頂部が叢生（そうせい）し、株全体が萎縮する。また、萎縮したわき芽を多数生じる。
- 発病後は開花しても結実せず、また、発病前に着果した果実は小玉傾向となり大きく減収する。

上記のような症状やコナジラミ類が多発生している場合は、

大里農林振興センター農業支援部（TEL 526-2210）又は

深谷市産業振興部農業振興課（TEL 574-6648）まで

ご連絡ください。